

平成 20 年 3 月 19 日

報 道 各 位

(財)日本ゴルフ協会

**第 30 回クィーンシリキットカップ
アジア太平洋女子アマチュア招待ゴルフチーム選手権
日本開催・日本代表選手決定のお知らせ**

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は日本ゴルフ協会(以下 JGA)の多岐に渡る活動にご協力賜り厚く御礼申し上げます。さて、女子ナショナルチームの本年初戦となる「第 30 回クィーンシリキットカップアジア太平洋女子アマチュア招待ゴルフチーム選手権」が 5 月 28 日(水)～30 日(金)に、千葉県の袖ヶ浦カントリークラブ・袖ヶ浦コースで開催されることが決定致しました。本選手権が日本で開催されるのは、1995 年大会(習志野カントリークラブ)以来 13 年ぶり 3 回目となります。また、JGA 女子ナショナルチーム委員会は、ホスト国として迎える本選手権の日本代表に、藤本麻子(作陽高校 2 年)、宮里美香(興南高校 3 年)、森田理香子(京都学園高校 3 年)の 3 人を決定致しました。昨年の本選手権日本代表として出場した同じメンバーで 3 位に終わった雪辱を期します。

なお、本選手権の参加チーム並びに出場選手などの詳細は、決定し次第、プレスリリースを送付致します他、当協会ホームページ(<http://www.jga.or.jp>)で大会情報を随時掲載致します。また、取材にあたりましては、次回リリース(4 月中旬予定)の際に、事前申請書を同封致しますので、ご了承ください。

アジア太平洋地区で最大規模の女子アマチュアチーム選手権である本選手権の日本開催を機会に、これまで以上に女子国際公式競技に関心を持っていただければ幸いです。

つきましては、本選手権に関する資料を同封しましたので、ご高覧の上、何卒ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

本件に関するお問い合わせ先
(財)日本ゴルフ協会 事務局
担当 内田/長堀/山下
TEL03-3566-0003 FAX03-3566-0101

第30回クィーンシリキットカップ
アジア太平洋女子アマチュア招待ゴルフチーム選手権
実施概要

- 開催期間 : 平成20年5月28日(水)～30日(金)
指定練習日: 5月26日(月)～27日(火)
開会式: 5月27日(火)16時開始予定
閉会式: 5月30日(金)16時開始予定
- 開催地 : 日本 袖ヶ浦カンツリークラブ・袖ヶ浦コース
〒266-0007
千葉県千葉市緑区辺田辺町 567
043-291-1111
- 競技方法 : 1日18ホール、3日間計54ホールのストロークプレー。各日とも、各チーム3人中2人のベストスコアをその日のチームスコアとし、3日間の合計スコアで優勝を競う。
- 参加国及び地域(予定) : オーストラリア、中国、台湾、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、スリランカ、タイ、シンガポール
- キャプテン : 里深 真弓 (JGA 女子ナショナルチーム強化部会長)
- コーチ : 二宮 薫 (JGA 女子ナショナルチーム強化部会委員)
- 日本代表選手 : 藤本 麻子 (作陽高校2年)
宮里 美香 (興南高校3年)
森田理香子 (京都学園高校3年)
- 学校名、学年は平成20年3月現在のもの
選手プロフィールは当協会 HP (<http://www.jga.or.jp>) でご覧いただけます。

クィーンシリキットカップとは

タイ国の女子アマチュアゴルフ協会が主催するアジア太平洋地区唯一で最大級の女子公式団体戦。ゴルフを通じて同地区の友好を深めるとともに、スポーツマンシップの促進、女子ゴルフの普及及び発展を目的に1979年から毎年、アジア各国で開催されています。大会名称となっている「クィーンシリキットカップ」の由来は、同協会が第1回選手権をバンコクのナバタニ・ゴルフコースで開催するにあたり、大会主旨に賛同されたタイ国のシリキット女王から優勝杯を寄贈されたことによるものです。

競技は、3日間54ホールストロークプレーで各国代表3選手のうち2人のスコアがチームスコアとして採用され、優勝を競います。

これまでの大会結果を振り返ると、韓国が最多の10回の優勝を数え、それに続きオーストラリアが8回本選手権を制しています。日本は、過去6回の優勝を果たしています。クィーンシリキットカップには過去、カーリー・ウェブ(オーストラリア)やバーディー・金(韓国)などUSLPGAツアーで活躍を続けている選手がアマチュア時代に出場しているほか、日本代表選手として、服部道子や福嶋晃子、高村亜紀(現在大久保亜紀)、古閑美保、宮里藍、諸見里しのぶ、佐伯三貴など女子プロゴルファーで活躍している多くの選手が名を連ねています。

本年度の日本代表選手

昨年の本選手権で第2ラウンドを終えてチーム戦単独2位につけていながら、強風の中で行われた最終ラウンドで大きくスコアを崩し、優勝の韓国と21打の大差をつけられ3位と悔しい結果に終わった日本チーム。本年度は、昨年と同じ藤本麻子、宮里美香、森田理香子の3人でチームを構成。昨年大会の雪辱を期します。

ふじもと あさこ
藤本 麻子（作陽高校2年）

昨年の本選手権では、初の国際競技出場の際の緊張からか3日間で一度もアンダーパーを出せずに終わった藤本。2年連続のクイーンシリキット出場となる今年は、持ち味のドライバースhotsの飛距離を活かし、ナショナルチームのエース候補として昨年を上回る結果を残すことが期待されます。昨年の藤本は、日本女子アマベスト16入りを果たしたほか、日本ジュニアでは4位。自国開催となったネイバーストロフィーでも個人戦3位入賞でチーム優勝に貢献するなど、安定した成績を残しています。

みやざと みか
宮里 美香（興南高校3年）

2004年の日本女子アマで最年少優勝記録を更新し、2005年にナショナルチームメンバーとなって以来、チームの中心として活躍を続けている宮里。昨年は、日本代表としてクイーンシリキットの他に、世界ジュニアで個人戦4位タイ。ネイバーストロフィーでは、個人戦優勝を果たして2年ぶり3度目のチーム優勝の原動力となりました。国内アマチュア競技では、日本ジュニア2連覇のほか、日本女子アマベスト4と女子アマチュアゴルフ界を代表するトッププレーヤーとして十分な成績を残しました。元来、安定したショットに定評がある宮里。ここ数年継続している体力トレーニングの成果もあり、力強さも備わってきました。チームリーダーとして、本選手権7度目のチーム優勝に力を注ぎます。

もりたりかこ
森田理香子（京都学園高校3年）

森田は、2006年の世界女子アマで初出場ながら個人戦で2位に入賞し、一躍注目を集めました。昨年は、関西女子アマを制し、日本女子アマでベスト8、日本女子オープンではローアマチュアを獲得。全米女子アマにも出場してマッチプレーに進出、ベスト32入りを果たしたほか、世界ジュニアでは個人戦2位と国内、国際競技で上位成績を修め、潜在能力の高さを示しました。昨年のクイーンシリキットでは、第2ラウンドで65のベストスコアをマークしながら、最終ラウンドで森田自身「初めて」という90の大乱調で悔し涙を流しました。森田の魅力は、身体全体を鞭のようにならせて放つドライバースhots。平均飛距離260ヤードの長打力は、目を見張るものがあります。爆発的なスコアを叩き出す攻撃的なプレーでチームを牽引し、悲願の優勝を狙います。

開催コースの紹介

会場の袖ヶ浦カントリークラブ・袖ヶ浦コースは、1960（昭和 35）年の開場。豊富な林でセパレートされたコースは、1985 年の日本女子オープン、また、男子ツアー競技の会場としてゴルフファンにも知られています。フラットながらも自然の緩やかな起伏が所々にあり、ドッグレッグや池越えなど変化に富んだホールは、狙い所が狭まり、攻略には正確なショットが求められます。グリーンにも微妙なアンジュレーションが施されており、我が国を代表するコースのひとつとして、名を馳せています。

(交通のご案内)

【自動車】千葉東金道路大宮 IC を出て右折。大網方面に向かい約 2 キロの千葉外房道路入口をさらに右折。500メートル先の十字路を左折し、鎌取駅前を直進。300メートル先の Y 字路を左折しコースへ。

【電車】JR 外房線・鎌取駅下車

【タクシー】鎌取駅から約 5 分、約 650 円

取材について

本選手権の取材につきましては、**事前登録制**とさせていただきます。本選手権の参加選手エントリー終了後の**5月上旬に、取材事前登録用紙を含めて、改めてプレスリリースを配信致します**ので、予めご了承ください。